

(19) イカナゴ資源生態調査

予算

運営費交付金

結果の概要

大阪府の重要な水産資源であるイカナゴの資源生態を明らかにし、毎年の資源状態を把握することにより、漁況予報に必要な資料を収集するとともに、適正な資源管理をおこなうための知見を集積することを目的として実施している。本年も、従来同様に仔魚分布調査と漁獲物測定調査を実施した。なお、イカナゴの生活史周期から、調査を暦年で区切ったほうがわかりやすいため、本報告では暦年の 2012 年の調査結果について述べる。

調査方法

1. 調査定点

1) 仔魚分布調査

大阪湾内の 12 調査点 (資料 1 参照)

2) 漁獲物測定調査

中部地区の岸和田市漁協と南部地区の深日漁協

2. 調査期間と実施日

1) 仔魚分布調査

第 1 回調査 : 2012 年 1 月 5、6 日

第 2 回調査 : 2012 年 1 月 16、17 日

第 3 回調査 : 2012 年 2 月 3、6 日

2) 漁獲物測定調査

2012 年 2 月 27 日～3 月 28 日

3. 調査項目

1) 仔魚分布調査

口径 60cm、目合い 0.335mm ボンゴネットによる表層～近底層の往復傾斜曳き採集。

2) 漁獲物測定調査

漁期間中の漁獲物を原則として 1 週間に 1 回以上採取し、1 回につき 100 尾を全長測定。

4. 調査船

1) 仔魚分布調査

漁業調査船「おおさか」(28トン、1009馬力×2基)

調査結果

1. 仔魚分布調査

調査の結果をもとに、2012年2月10日に発表した「イカナゴしんこ漁況予報(平成24年)」を「資料1」に示す。

2. 漁獲物測定調査

測定結果を表1に示す。

担当者

日下部敬之、大美博昭、中嶋昌紀

表1 イカナゴ資源生態調査 漁獲物測定調査結果

	漁協名	平均全長(mm)	標本標準偏差
2012/2/27	岸和田市	32.9	4.86
2012/2/27	深日	31.5	5.54
2012/2/28	深日	34.6	4.96
2012/2/28	岸和田市	30.2	6.72
2012/2/29	深日	34.8	5.93
2012/2/29	岸和田市	37.1	4.75
2012/3/1	深日	38.2	7.49
2012/3/1	深日	37.9	4.57
2012/3/1	深日	33.8	6.86
2012/3/3	岸和田市	42.9	3.86
2012/3/3	深日	42.4	4.23
2012/3/5	岸和田市	41.5	4.89
2012/3/6	深日	45.1	4.80
2012/3/7	岸和田市	45.5	4.49
2012/3/8	岸和田市	39.2	7.81
2012/3/9	深日	41.2	8.37
2012/3/9	岸和田市	36.2	9.07
2012/3/10	岸和田市	36.7	6.98
2012/3/14	深日	37.2	8.22
2012/3/16	深日	46.1	4.96
2012/3/27	深日	49.5	7.34
2012/3/28	深日	46.5	8.69

各サンプルとも100尾を測定。

イカナゴしんこ漁況予報（平成24年）

平成24年2月10日

大阪府環境農林水産総合研究所 水産技術センター

◎水温（図1）

水温の高低は、イカナゴ親魚の産卵時期（水温低下が産卵の引き金となる）や、ふ化した仔魚の成長（水温が高い方が成長が速い）、生き残り率（低水温の方が良い）などに影響を与える。今冬の水温は、12月下旬から1月前半にかけて平年を下回ったが、1月後半から現在まではおおむね平年並みで経過している。気象庁は2月の気温をやや低め（低めの確率が50%）と予測しているので、今後しばらくの水温は平年並みもしくはやや低めで推移すると考えられる。

◎季節風（図2）

季節風（特に西風成分）は、播磨灘から大阪湾に向かう海流を強め、イカナゴ仔魚の大阪湾への流入量を増大させる。また、仔魚の散らばりを促進することによって、生き残りにプラスに働く。今冬の西風の強さは、12月中旬から1月上旬までは平年を上回り、1月中旬に平年を下回った後、1月下旬～2月上旬は再び平年を上回っている。

◎産卵量および産卵期

兵庫県水産技術センターは、大阪湾で漁獲されるイカナゴの主な産卵場である、播磨灘鹿ノ瀬海域で産卵親魚の調査を行なっている。その結果によると、今期の鹿ノ瀬海域での総産卵量は、非常に多かった昨シーズンの0.3倍であり、近年の平均量と比べてもやや少なめであったと推定されている。一方、親魚の成熟状況と水温の推移から推定された産卵盛期は、12月26日から28日の間であり、昨シーズン（12月28日～1月5日頃）よりもやや早かった。

◎仔魚の出現状況（図3, 4）

今期も、大阪湾内に設けた12の調査点において、プランクトンネットによるイカナゴ仔魚採集調査を3回実施した。

1月5、6日に行なった第1回調査では、イカナゴ仔魚は明石海峡近くの海域で計5個体採集されたのみで、多くの点では採集されなかった。この時点では、まだふ化および大阪湾への流入が本格的に始まっていなかったと考えられる。

第2回調査は1月16、17日に行なった。仔魚の出現数は1点あたり平均96尾で、非常に多かった昨年同時期に比べるとかなり少ないものの、最近5年の同時期採集数としては、昨年に次いで2番目の数であった。仔魚は湾の全域に比較的広く分布していた。平均全長は4.9mmで、昨年同時期よりやや大きかった。

2月3、6日に実施した第3回調査での仔魚数も、非常に多かった昨年同時期と比較するとかなり少なかったが、最近5年の同時期調査のうちでは3番目の数

であった。仔魚は湾の東部から南部にかけて多く分布していた。この時点での平均全長は 10.4mm で、昨年同時期よりかなり大きかった。

◎イカナゴしんこの漁況見通し

以上のように、今期の鹿ノ瀬における産卵量はやや少なめであったが、仔魚の出現数は、昨年より大幅に少ないものの、近年のうちでは平均的な水準であり、環境条件も特に悪くない。これらのことから総合的に判断して、今年のイカナゴ漁開始時におけるしんこの資源量は、非常に多かった昨年を大きく下回り、近年の平均的な水準であろうと予測される。また、現時点での仔魚の大きさおよび水温から、2月下旬～3月上旬時点でのしんこの大きさは、昨年より大きいであろう。

図1 大阪湾口部の水温変化

水産技術センター前、午前9時の底上1.75m

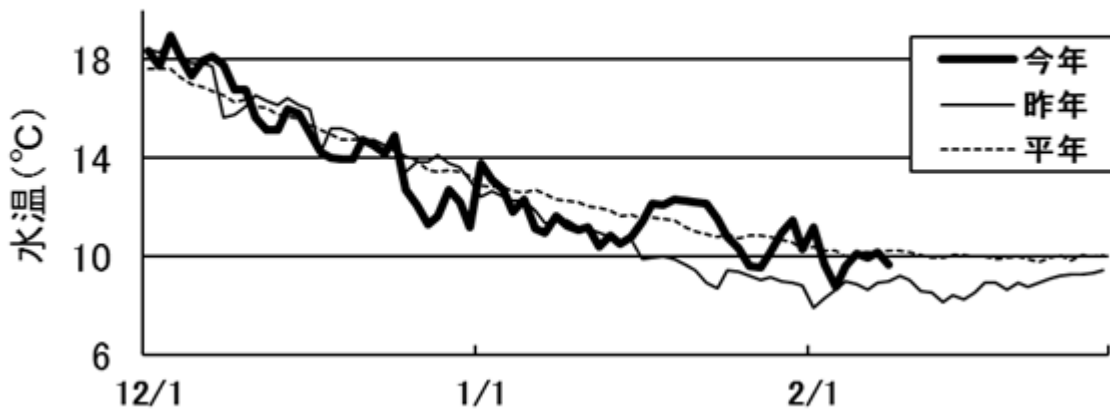
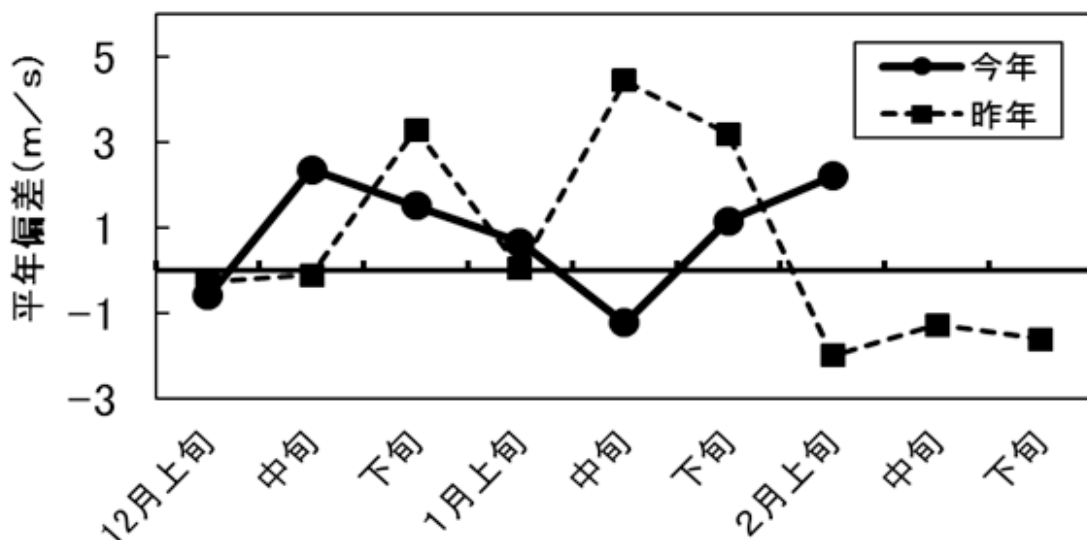


図2 西風成分の平年偏差

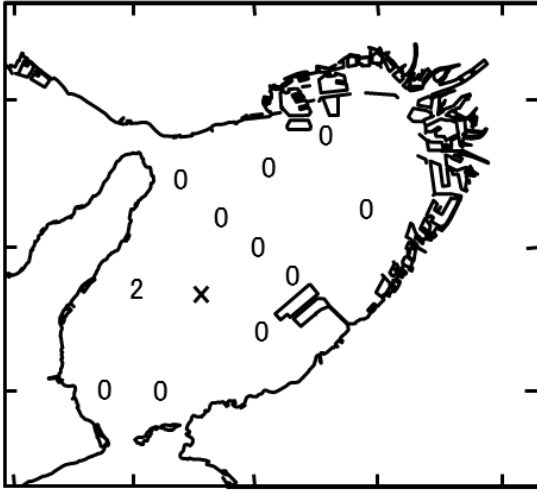
水産技術センター定置観測、旬平均値



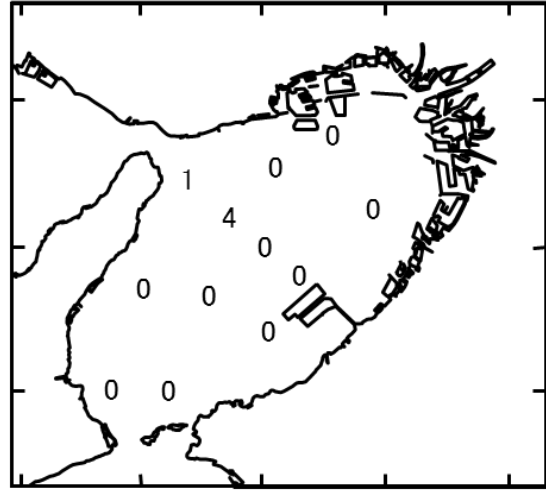
注) 今年の2月上旬の風データは暫定値である。

図3 イカナゴ仔魚の採集数

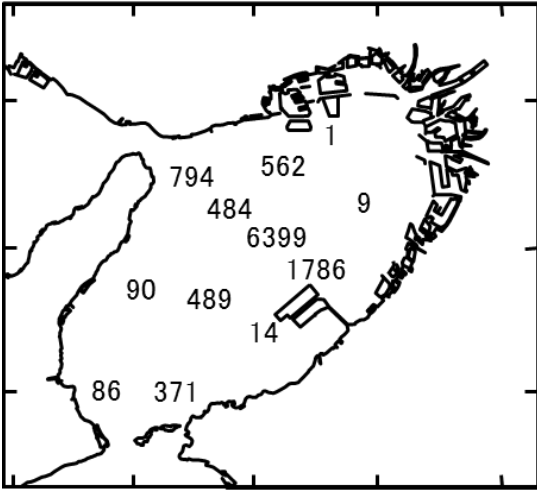
ボンゴネット斜め曳きによる、面積1平方mの水柱あたりの尾数。



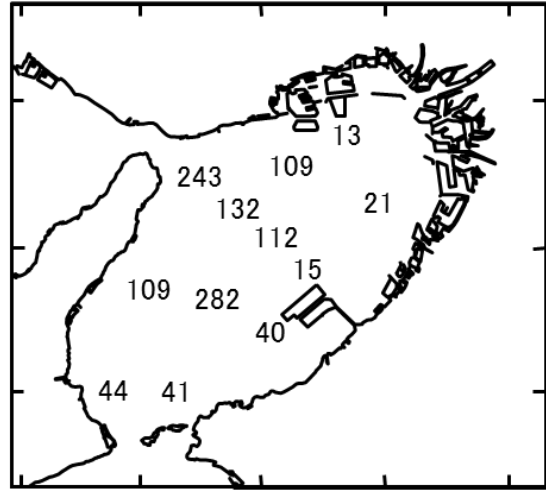
昨年1月4, 5日 1点平均 0.2尾



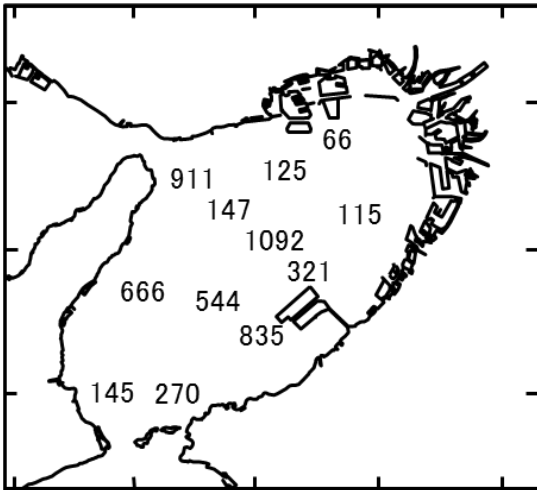
今年1月5, 6日 1点平均 0.5尾



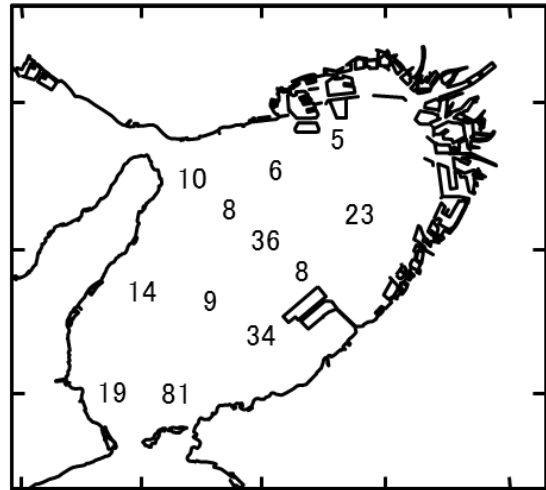
昨年1月18, 21日 1点平均 924尾



今年1月16, 17日 1点平均 96尾

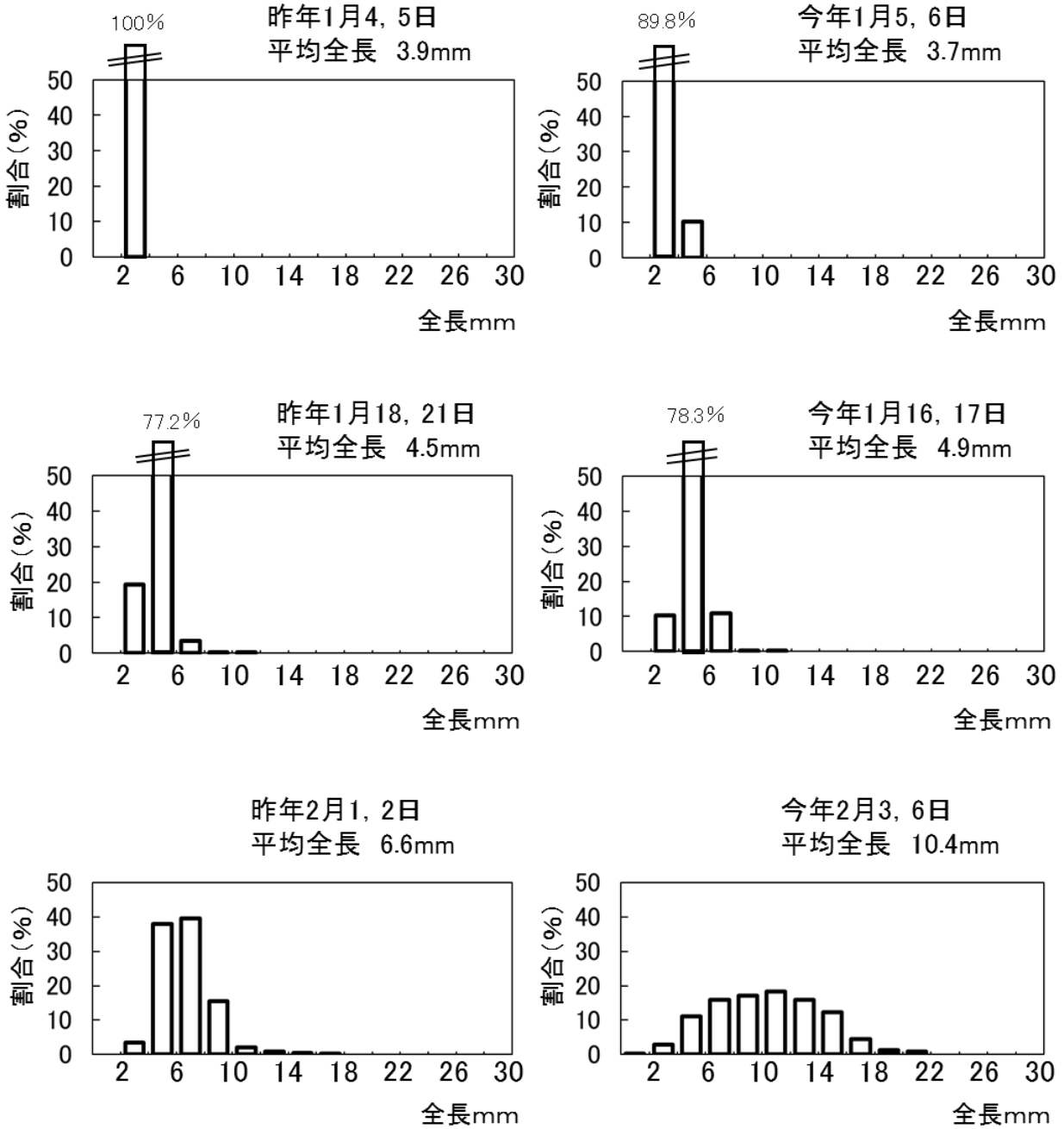


昨年2月1, 2日 1点平均 436尾



今年2月3, 6日 1点平均 21尾

図4 昨年と今年のイカナゴ仔魚全長組成の比較



昨年

今年